

る。また、集団宿泊活動については、望ましい人間関係を築く態度の形成などの教育的な意義が一層深まるとともに、高い教育効果が期待されることなどから、学校の実態や児童の発達の段階を考慮しつつ、一定期間（例えば1週間（5日間）程度）にわたって行うことが望まれる。』

このように、それぞれの思いが一致するものとして、この事業が考えられたのだと思います。

では、実際の活動はどうだったのか、次号から、少しずつ紹介していきたいと思います。

2 特別活動の実践に取り組むようになったわけ

下関市立名池小学校 梶田 崇晴

私が特別活動の実践に取り組むようになってから30年近くたちます。

特別活動に取り組むようになったきっかけは、新採2年目の時に会った校長先生が、「教科の研究は大事。しかし、それ以上に特別活動の研究はもっと大事である」と言われ、半信半疑で始めたことでした。その当時は、「特活っておもしろいな」という感覚だったように記憶しています。

それが、本気で研究をしなくちゃいけないと思ったのは、ある出来事があってからでした。

2校目の学校に勤務している時のこと、同学年にとっても真面目な先生がおられました。その先生は、とにかくきちんとしていないといけないというお考えをおもちで、子どもたちの生活には厳しく対応しておられました。悪いことがあると、決してないがしろにするのではなく、厳しい態度で臨まれていました。職員間の中でも、ほとんど冗談などを言われたことがありませんでした。4月当初、ちょっとだらけた感じだった子どもたちも、日が立つにつれて、生活態度もよくなり、きびきびとした行動が出来るようになっていきました。そういう指導の様子を見ながら、自分も子どもたちのだらけた態度を何とかするためには厳しく対処することも大切なんだという思いが強くなっていきました。

そして2学期も半ば頃、その学級に、いわゆる「登校渋り」を訴える子どもが3人出てきたのです。

この問題については、当時の校長先生が中に入られ、解決したようですが、その時、その校長先生に教えてもらったことが「子どもたちには緊張と弛緩が必要」だということでした。

厳しく指導される場面では、子どもたちは緊張しています。生活面でもそうだし、学習面でも同じです。しかし、そればかりでは子どもたちは息苦しさを感じていくというのです。時には子どもたちが緊張を解く場面が必要だということなのです。

このことを教えてもらった時、特別活動の実践には、子どもたちの緊張を上手に解いていくものがあるということを思いました。例えば、学習を苦手だと感じている子どもにとつ

て授業は緊張の連続です。そういう子どもにとって、特別活動で、自らが主体的に活動していく場面をつくってあげること、その子が生き生きと活動できるようになる面をみることができるようになるのです。

自分が受け持った子どもたち全員を、学校という場の中のどこかで一人ひとりのよさを生かしたい。そういう思いが、私を特別活動の実践に本気で向かわせるようになった理由です。

3 メルマガ編集部からのお知らせ

◆山口学級活動ネットワーク メールマガジンの登録について◆◇◆

現在の購読者は280名弱ですこれまで以上に内容を充実させていく必要を感じています。もっともっとメルマガ仲間が増えるといいなと思っています。

お知り合いの方にこのメルマガを紹介してください。登録については、山口学級活動ネットワークのホームページをご参照ください。

url: <http://www.yamakoshu.org/gakkatu-net/>

◆メールングリスト「学級づくり夢工房」◆◇◆

ネットワークでは、メールングリスト「学級づくり夢工房」を行っています。これは、メールを使って学級づくりに関する情報を気軽に交換し、皆さんがお持ちの実践を共有化しようというものです。

方法は簡単！ 下記アドレスまで「メールングリスト希望」と書かれて送信してください。こちらで登録を行います。

ともに夢を追いかけましょう！

sugi-net@jewel.ocn.ne.jp

◆実践投稿のお願い◆◇◆

読者のみなさん、みなさんが取り組まれている情報を送ってください。学級づくりの実践を広げ、共有していきましょう。

どんな小さな事でもけっこうです。情報をお待ちしています。

=====

山口学級活動ネットワーク メールマガジン

☆ご感想・ご意見は

sugi-net@c-able.ne.jp または sugi-net@jewel.ocn.ne.jpまで

☆編集・発行 山口学級活動ネットワーク メールマガジン編集部

梶田崇晴（下関市立名池小） 津村元文（美祢市立伊佐小）

吉田哲朗（山口大学附属山口小） 西田智行（下関市立垢田小）

福永博一（萩市立椿西小）

=====